

“ともに学び、ともに育つ、開かれたまなびの場”

—多様な「ニワ」と安心できる居場所「ホーム」が作り出す柔軟な学習空間—

実現に当たって4つの基本方針を提案の柱として掲げます。

- ① ひとりひとりの安心・安全に寄り添い、みんなの拠りどころとなる学校
- ② 探究的な学びを促し、学校全体が学びのフィールドとなる空間構成
- ③ 生徒の活動と地域とのつながりを両立させる敷地利用・平面計画
- ④ 誰にとっても「自分の居場所」となり、愛着をもって使い続けられる学校づくり

令和7年12月12日
文教委員会報告資料5-3
市長公室公共施設マネジメント課
教育部教育総務課

■個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる学習空間

●「ホーム」と「ニワ」によって学びとつながりを育む構成

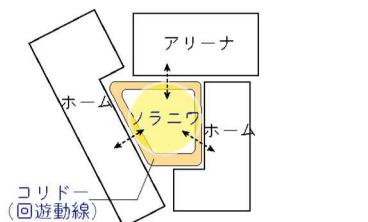
- ・ 本計画では、普通教室を中心としたひとりひとりの学びを支える空間を「ホーム」、特別教室を中心とした共創的な学びの場を「ニワ」として位置づけます。
- ・ 生徒が安心できる居場所「ホーム」のまわりに、他者と出会い、つながり、協働するきっかけとなる「ニワ」を配置して、個の学びと協働的な学びのバランスを図ります。



ニワと地域とのつながり

●「ソラニワ」を中心とした一体感で理念を体現した建物構成

- ・ 「ホーム」となる普通教室や、職員室が二階中央の吹抜空間「ソラニワ」を介して繋がり、他者とのつながりの中でともに学び、ともに育つ学校を目指します。
- ・ 「ソラニワ」を囲む回遊動線としてのコリドーは、適度な距離感を保ちながら各空間を緩やかにつなぎ、建物全体に一体感をもたらします。



「ソラニワ」を中心とした建物構成

●探求的な学びの中心となる「ちしきのニワ」

- ・ 図書室を中心としたメディアセンターを1階の中心に配置します。生徒の日常動線上に設けることで、自然な利用を促し、探究心を育む空間とします。
- ・ 1階の少人数教室は、閲覧コーナーや学習スペースとしてメディアセンターと一緒に利用でき、知的好奇心を刺激する柔軟な学びの場となります。エリア全体を「ちしきのニワ」と位置づけ、生徒が主体的に学ぶ環境を創出します。



理科室に面する「サイエンスのニワ」

●地域開放と学校生活を両立する明快なゾーニング計画

- ・ 地域開放スペースは体育館側に集約し、生徒の生活空間とは明確に区分できる計画とします。また、運用次第では特別教室の地域開放も可能とする柔軟なゾーニングとしています。
- ・ 地域開放の動線は、生徒の出入口となる昇降口とは明確に分離し、管理のしやすい計画とすることで、地域住民も積極的に利用しやすい環境を整えます。



地域開放動線に面する「モノづくりのニワ」

■多様な教育活動を想定した柔軟性のある建築計画

●「ともに育つ」特別支援学級との自然な交流を促す距離感

- ・ インクルーシブ教育システムの観点から、通常の学級と特別支援教室が互いの存在を感じながら、程よい距離感を保てるよう「ソラニワ」を介したゾーニングを提案します。
- ・ 職員室から近い目の届く配置とし、緊急対応に配慮します。
- ・ 特別支援学級は専用の廊下を設け、独立した教室群とします。

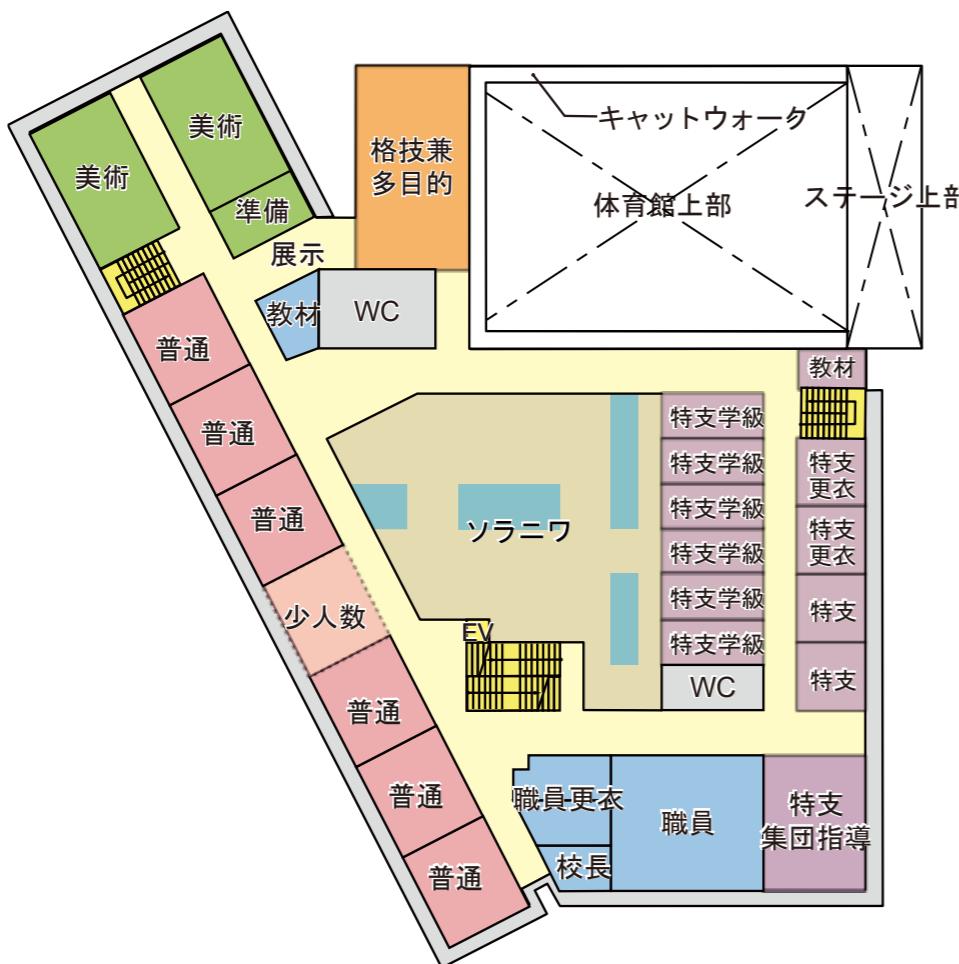


「ソラニワ」に面する特別支援学級

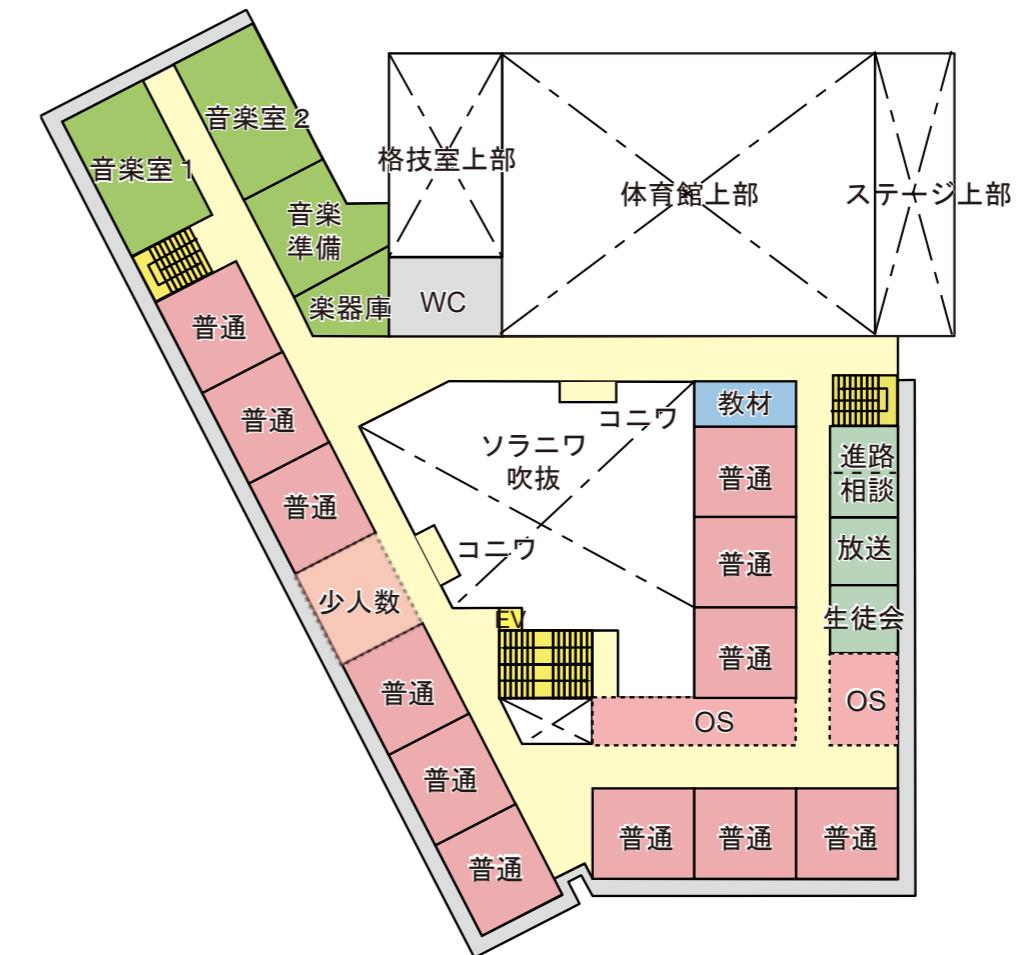
新校舎 配置図兼1階平面図（提案図）



新校舎 2階・3階平面図 (提案図)



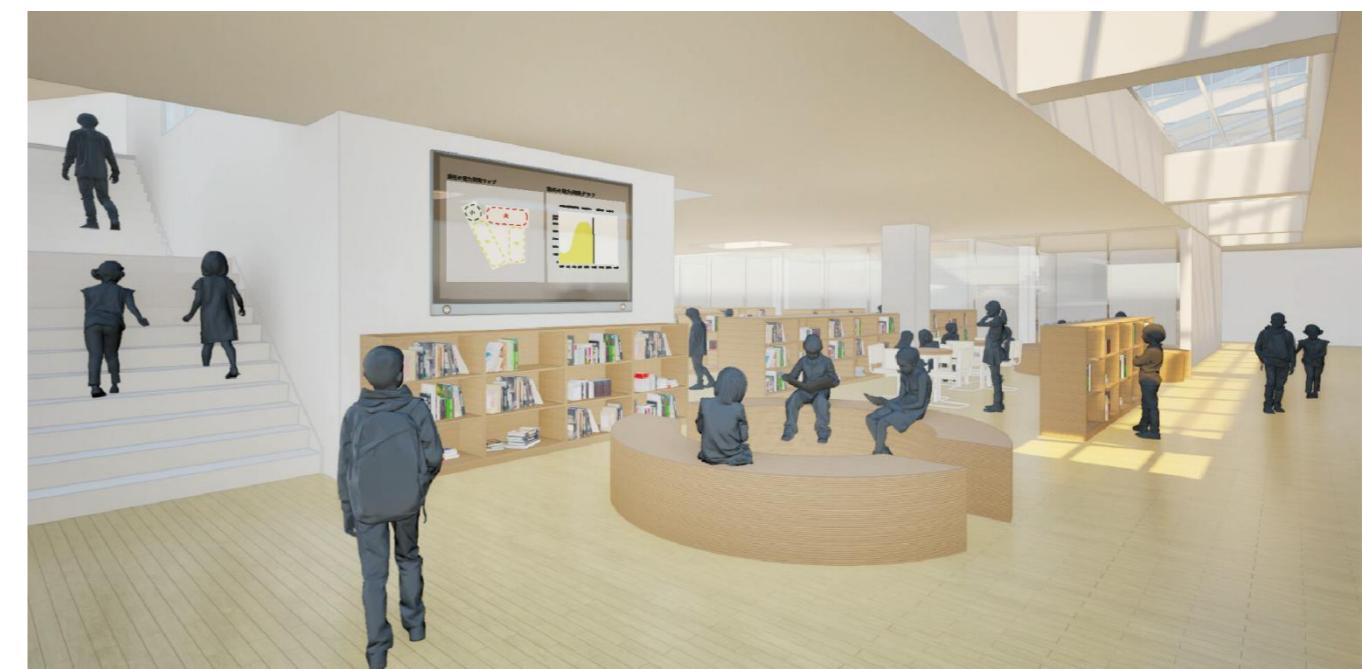
2階平面図



3階平面図

※プロポーザル審査時における事業者提案内容であり、設計図面ではありません。

新校舎パース（提案図）



※プロポーザル審査時における事業者提案内容であり、設計図面ではありません。